

学校評価は、子どもたちがより良い教育を享受できるようその教育活動等の成果を検証し学校運営の改善と発展を目指すための取組です。保護者や地域からの期待に応えるとともに、より信頼される学校づくりをめざして今年度のアンケート結果を分析し、来年度に向けた課題を明らかにしたいと考えます。

- 調査時期 保護者＝令和3(2021)年12月3日(金)15:30～12月6日(月)7:00  
児童＝令和3年12月6日(月) 教職員＝令和3年11月22日(月)～11月24日(水)7:00
- 調査方法 保護者・教職員＝市学校メールでURLアンケートフォームを添付し、アンケートに回答する。
- 調査人数・・・児童250/回答267名 保護者175/回答112名 教職員19名
- 評価点 4＝そう思う 3＝ややそう思う 2＝あまりそう思わない 1＝そう思わない

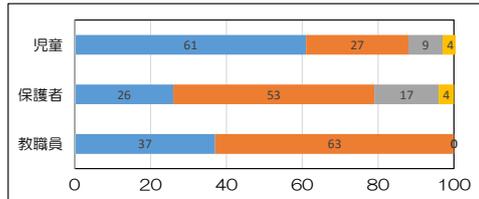
○考察・・・4+3を肯定的評価、2+1を否定的評価ととらえる。  
(表内の数字は無回答を抜いた%。各選択肢ごとの四捨五入で合計が100にならないものもある。)

1 いじめのない学校づくりについて

- 児童 1. いじめのない楽しい学校生活を送ることができていますか。
- 保護者 1. いじめのない楽しい学校だと思いますか。
- 教職員 1. 学校は、いじめのない楽しい学級・学校づくりに取り組んでいますか。

	4	3	2	1	4+3
1 児童	61	27	9	4	88
1 保護者	26	53	17	4	79
1 教職員	37	63	0	0	100

回答数	
児童	267
保護者	112
教職員	19



(考察)

児童の肯定的評価が88%と、おおむね良好な数値を示しています。保護者の肯定的評価も79%と、ある程度評価していただけていますが、昨年度と比較して5%減少しています。

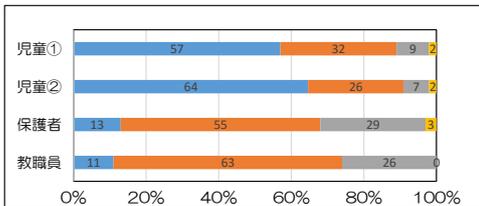
いじめの実態把握とその根絶は、本校の最重要課題の一つです。本校の教職員は一致団結し、いじめを見逃さない高い意識といじめ根絶に向けた強い決意をもって日々の指導に取り組んでいます。いじめアンケートも年2回実施し、事後確認・指導を行っています。

今後も、保護者や児童の回答に見られる否定的な結果を真摯に受け止め、教職員が「いじめを絶対に許さない」という強い意識を常にもちつつ、しんどい思いをしている子に寄り添いながらいじめを見逃さない鋭い人権意識をもつ児童を育てていくことを課題とし、豊かな人間関係を育む人権教育を進めていきます。

2 あいさつについて

- 児童 1. 先生や友達にあいさつをしていますか。①  
2. 家族や地域の方にあいさつをしていますか。②
- 保護者 2. 子どもは、家庭や地域の方に挨拶がよくできていると思いますか。
- 教職員 2. 児童は教職員や友達に挨拶をよくしていると思いますか。

	4	3	2	1	4+3
2 児童①	57	32	9	2	89
2 児童②	64	26	7	2	90
2 保護者	13	55	29	3	68
2 教職員	11	63	26	0	74



(考察)

本校では、学校目標として「気持ちのよいあいさつ」の励行を掲げ、教職員が率先して「あいさつ運動」を推進してきました。また、以前より本全体の取組として「あいさつ運動」が推進され、児童の間にもその意識が少しずつ浸透しつつあります。

今年度のアンケート結果は、教職員の肯定的評価が74%と昨年度の92%より18%も減少しました。保護者については68%と、昨年度(66%)と数値の変化は見られません。教職員は、校門や児童昇降口前等での日々の挨拶の呼びかけとともに、気持ちのよい挨拶を意識して「あいさつ運動」に取り組んでいます。さらに数値が向上するよう取組を継続していききたいと考えます。

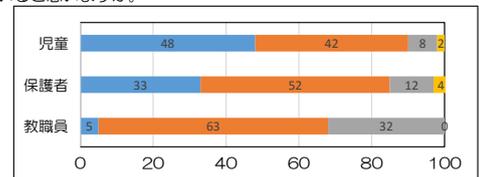
児童の肯定的評価は、いずれも89%以上の数値を示しています。しかしながら、教職員や児童と保護者の評価の間に、大きな乖離が見られます。児童としては、挨拶はしているつもりであってもそれが元気がなかったり声がかさったり、あるいは、特定の顔見知り的人物に限られていたり、保護者との意識に大きな温度差が生じていると言えます。

今後も継続して、保護者の皆さんをはじめ・地域住民とのさらなる連携強化を図り、心の通った「あいさつ運動」を、地域全体で展開していききたいと考えます。

3 学校のきまりについて

- 児童 3. 学校のきまりや約束を守って生活することができていますか。
- 保護者 3. 子どもたちはきまりや約束を守っていると思いますか。
- 教職員 3. 児童は学校のきまりや約束を守って生活をしていると思いますか。

	4	3	2	1	4+3
3 児童	48	42	8	2	90
3 保護者	33	52	12	4	85
3 教職員	5	63	32	0	68



(考察)

児童、保護者とも肯定的評価が昨年同様に85%を超えたのに対し、教職員の「そう思う」の結果が、教職員は昨年度の29%から5%に大きく減少し、肯定的評価も昨年の87%から68%となりました。廊下歩行や時間を守る、学校に必要なものは持ってこない、部団登校の仕方、タブレットは学習のツールなど学校での基本的なきまりを守れていない児童が多く見られ児童・保護者との意識に今年度は大きな開きがありました。

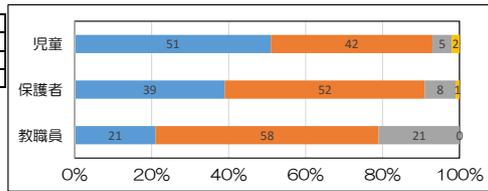
児童に対しては、今後も、繰り返し学校でのきまりを守ることの大切さを指導し、また、ルール・約束を守ることが、共に生活しているなかまを大切にすることも深くつながっていることをしっかりと意識させていくことが、児童の規範意識のさらなる醸成につながるものと考えます。

生徒指導においては、教職員の共通理解と保護者・地域住民の協力のもと意識統一を図りながら、充実した指導をめざしていくことで系統的な指導が可能となり、児童に確かな社会性を育てることにつながります。今後も、教職員が一丸となって児童の規範意識を高めるために率先垂範の姿勢で努力を続けます。

#### 4 清掃・美化について

- 児童 4. そうじをがんばっていますか。  
 保護者 4. 学校は、校舎内の美化に積極的に取り組んでいますか。  
 教職員 4. 本校は、校内の環境美化に積極的に取り組んでいますか。

	4	3	2	1	4+3
4 児童	51	42	5	2	93
4 保護者	39	52	8	1	91
4 教職員	21	58	21	0	79



(考察)

全般的に清掃の時間内において、児童は一所懸命に清掃活動を進めています。児童の93%が、保護者においても91%が肯定的評価を示しています。教職員の肯定的評価が79%と昨年より9%減少しています。コロナ禍での清掃は制約も多い中、密を避け間隔を取りながら掃除の指導をし、掃除後の手洗いの指導も繰り返しています。

教職員は、今後も自分たちの学校を美しくすることの意義を引き続き児童に説くとともに、率先垂範を心掛けすべての教職員が15分間の掃除活動を児童とともに一所懸命に取り組むことをめざしたいと考えます。さらに、児童には清掃後の振り返りを大切にさせるとともに、清掃活動に対する意識をさらに高める教職員からの指示を待たず自分で考えて行動する力を育てていくことが必要だと言えます。

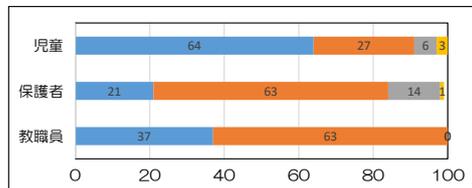
また、学校・地域・パートナーシップ事業コーディネーター下村晴弘氏を中心として、今般のコロナ禍の中においても学校・地域・パートナーシップ事業で環境美化活動が多くボランティアによって継続され、常に校内や学校の周りにはいつも美しい花が咲いている環境が保たれています。これらの取組も、肯定的評価につながっていると考えます。昨年度に引き続き、感染症予防対策員によりトイレ・手洗いの清掃や消毒を毎日行っています。今年度は北館トイレ改修工事が1学期末から2学期中旬にかけて行われ、乾式の床のきれいなトイレに生まれ変わりました。

「クローンタイム」に複数学年で学校周辺の清掃活動の取組も継続しています。自分たちの学校が、たくさんの方々のお陰で維持管理されていること、学校の物、みんなの使う物は大切に使い、使った後はきちんと片付けることをこれからも繰り返し話し、指導を進めていきます。

#### 5 授業について ①

- 児童 5. 授業はわかりやすいですか。  
 保護者 5. わかりやすい授業が行われている学校だと思いますか。  
 教職員 5. 本校は、わかりやすい授業に努めていますか。

	4	3	2	1	4+3
5 児童	64	27	6	3	91
5 保護者	21	63	14	1	84
5 教職員	37	63	0	0	100



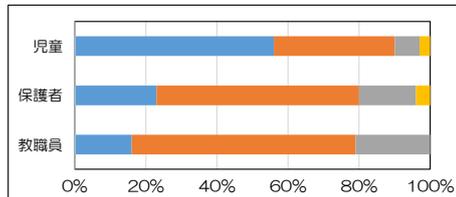
(考察)

児童の肯定的評価が91%と、昨年に引き続き良好な数値を示しています。また、保護者の評価においても肯定的回答が84%ありましたが、肯定的評価のうち「そう思う」が昨年より少し減り21%にとどまる結果となりました。この結果を真摯に受け止め、保護者からも教職員の学力向上に向けた取組やその努力が、児童のやる気や学力向上が結果として現れるよう、教職員が一丸となった授業改善の努力を継続していかねばなりません。教職員は日々わかりやすい授業を目指して、ICT(タブレット)の効果的な活用をはじめとする様々な授業改善に取り組んでいます。職員研修でもプログラミング学習やタブレット活用の研修を行いました。しかし、引き続き自己研鑽を積むことが必要だと考えます。新型コロナウイルス感染症感染状況により、自宅待機等の児童への学習支援にも、職員で支援方法や時間等検討し、共通理解のもと取り組んできました。日々変化する感染状況や社会状況、児童の実態をしっかり把握し、保護者の思いを受け止め、寄り添いながら、教職員自身が学び続け指導力向上に努めていきます。

#### 6 授業について ②

- 児童 6. 授業中、先生の話をよく聞いていますか。  
 保護者 6. 子どもたちは、授業中、先生の話をよく聞いていると思いますか。  
 教職員 6. 児童は授業中、話をよく聞いていますか。

	4	3	2	1	4+3
6 児童	56	34	7	3	90
6 保護者	23	57	16	4	80
6 教職員	16	63	21	0	79



(考察)

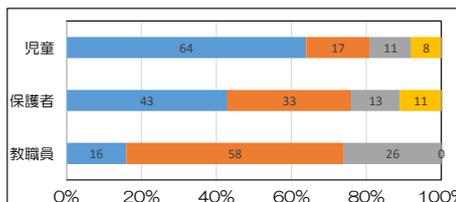
肯定的評価については、児童や保護者の評価としては概ね良好ですが、学校全体として学習規律の確立、聞く力や聞く態度の向上をさらに目指す必要があります。全般的に学習中は落ち着いた態度であり、学習によく集中していると思われ、肯定的評価のさらなる向上を教職員の課題としてしっかりと共通理解し、今後の授業改善に臨まねばなりません。

また、今年度も昨年同様に児童と保護者や教職員との回答結果には少なからず開きがあります。聞くことに関して「そう思う」という肯定的評価が保護者の23%、教職員の16%に比べて、児童はそれらを大きく上回る56%が「そう思う」と回答しています。児童は聞いているつもりでも、保護者や職員はそうではないとの思いがあります。双方の乖離を少しでも縮小できるように、「聞く」という活動は、学習の基礎・基本となる大切な活動であることを教職員で再度確認し、聞く力を育てるために必要なスキルアップを図ってまいります。

#### 7 家庭学習について

- 児童 7. 家庭で宿題やそれ以外の勉強をしていますか。  
 保護者 7. 子ども達は家で宿題やそれ以外の勉強をしていますか。  
 教職員 7. 児童は家庭学習に取り組んでいると思いますか。

	4	3	2	1	4+3
7 児童	64	17	11	8	81
7 保護者	43	33	13	11	76
7 教職員	16	58	26	0	74



(考察)

以前から、家庭学習の定着が学校の課題として取り上げられていますが、昨年と同様に、児童の否定的評価の数値が19%と、1/5の児童がこれに該当します。さらに教職員や保護者の数値を見ても、それ以上の教職員や保護者が児童の家庭学習の取り組み方に課題を感じています。家庭学習が定着しない理由として考えられることは、学習塾等の習い事やそこで出される課題等が児童にとっての優先順位の上位となっていたり、遊ぶことが優先されたり、また、やる気はあるものの、児童にとって宿題として出される内容が難しかったり、その量が多すぎたりと様々なことが考えられます。

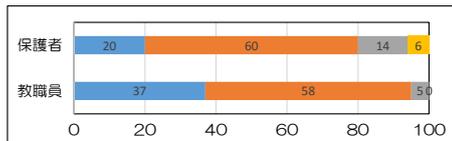
日々の家庭学習は必要不可欠であり、家庭学習の定着を図るための宿題の出し方や、家庭学習に対する児童の意識の向上も今後の課題としてとらえていくことが大切だと考えます。また、家庭学習の充実を図るために、家庭学習の重要性についての学校からの発信や啓発を今後も継続的に行ってまいります。

「学び続ける」ということが教育のめざすところであり、学校だけでなく地域の取組としても家庭学習の定着が求められています。今後とも、学校は子どもたちの基本的な生活習慣の一つとして家庭学習を位置づけ、それを育てる支援の手立てを具体的に示し、保護者への啓発を進めていきたいと考えます。

## 8 内容理解について

- 保護者 8. 教職員は、児童が学習理解しているかどうか気を配っていると思いますか。  
 教職員 8. 児童が学習内容を理解しているかどうか気を配っていると思いますか。

	4	3	2	1	4+3
8 保護者	20	60	14	6	80
8 教職員	37	58	5	0	95



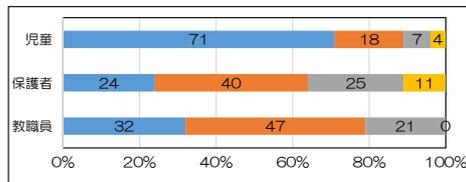
(考察)

保護者・教職員のアンケート結果からは、質問項目5「わかりやすい授業が行われている学校だと思いますか」、質問項目6「子どもたちは、授業中先生の話をよく聞いていると思いますか」の回答とはほぼ同様の傾向が今年度も見られます。  
 本設問の肯定的回答の割合は、教職員も保護者も80%以上とおおむね良好な結果ですが、保護者の学習指導に対する不安について、約1/7の保護者が「子どもがわからなくても先生はあまり気を配っていない」と感じています。また、「そう思う」という肯定的な保護者の評価も、昨年の37%から20%と減少し、まだまだ十分ではありません。教職員自身がしっかりと児童の理解度の状況を把握することに努めなくてはなりません。日々児童に寄り添い、個々の児童へのきめ細かな指導の大切さを理解し実践につなげようとする教職員の意識をさらに高め、学習指導力と児童の学力や発信力の向上をめざします。

## 9 体力作りについて

- 児童 8. 学校で外遊びや体育の授業をがんばっていますか。  
 保護者 9. 子ども達は進んで運動や外遊びをしていると思いますか。  
 教職員 9. 学校は体育の授業や外遊びを中心に体力づくりの取組を推進していると思いますか。

	4	3	2	1	4+3
9 児童	71	18	7	4	89
9 保護者	24	40	25	11	64
9 教職員	32	47	21	0	79



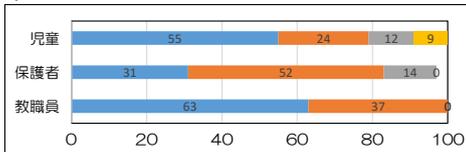
(考察)

児童を取り巻く現在の社会環境を考えた時、生涯にわたって健康を保持・増進しようとする意欲の醸成とともに、体力づくりや運動能力の向上という課題を、学校教育の中でどのように取り組んで克服していくかということが問われています。児童・教職員の約8割の肯定的回答は評価できる数値だと考えます。しかしながら、保護者の肯定的回答が64%で昨年に引き続き、児童・教職員の評価との開きがあります。コロナ感染状況により、学習活動内容や学校行事等に様々な制約がありますが、業間休みや昼休みを使って学級遊びの設定や、「密」回避に工夫を凝らした、体育学習や運動会の競技内容、なわとび集会など、体育指導部で検討し職員共通理解のもと、運動場での積極的な外遊びや、目標をもって体力の向上に臨むことを意図した取組が、児童や教職員の肯定的評価となって表れていると言えます。  
 職員も積極的に児童に声かけなどし、朝の登校後や昼休みなどに運動場に出て、一緒に外遊びをするようにしました。今後も引き続き運動が苦手な児童に働きかける取組を進めていきます。また、保護者への啓発を進めていく上で、児童の頑張りの様子を「学校だより」や学校のホームページ等で周知していきます。家庭でも、さらなる運動や体力づくりの取組をお願いしていくことも必要だと考えます。

## 10 教育相談について

- 児童 9. 先生に、相談することができますか。  
 保護者 10. 学校は、児童や保護者からの相談に応じていると思いますか。  
 教職員 10. 本校は児童や保護者からの相談に応じていますか。

	4	3	2	1	4+3
10 児童	55	24	12	9	79
10 保護者	31	52	14	0	83
10 教職員	63	37	0	0	100



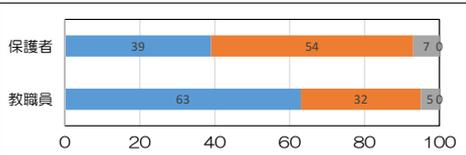
(考察)

保護者・教職員のアンケートでは、肯定的評価の割合が保護者では83%、教職員では100%と良好な数値を示しています。しかし、21%の児童が否定的な回答を寄せていることに関して、引き続き危機意識を教職員全体で共有する必要があると言えます。  
 本校の全教職員が「児童や保護者のよき相談相手であるべきだ」という使命感をもって日々の教育活動に臨んでおり、そのことが保護者の評価にも表れていますが、1割以上の保護者が不安・不満を抱えているのも事実です。また、昨年と同様に児童と教職員との20%の肯定的評価の乖離が見られました。今後はよき相談相手として、また、学校が保護者に安心を担保する存在として、しっかりと寄り添っていかなくてはなりません。  
 児童は年齢が上がってくる中で、相談相手として、徐々に「先生」や「保護者」よりも「友達」を優先する傾向が見られます。保護者との連携を密にし、児童や保護者の良き相談相手として、しっかりと信頼関係を築けるように日々取り組んでいきたいです。

## 11 情報提供について

- 保護者 11. 学校は、「学校だより」「学年通信」、ホームページ等を通じて、家庭に学校の情報を積極的に伝えられていると思いますか。  
 教職員 11. 本校は、「学校だより」「学年通信」、ホームページ等を通じて、保護者に学校の情報を積極的に伝えられていると思いますか。

	4	3	2	1	4+3
11 保護者	39	54	7	0	93
11 教職員	63	32	5	0	95



(考察)

より開かれた学校を目指す情報提供・開示の手立てとして、学校だより、学年・学級通信の発行とともに、学校ホームページの充実があげられます。今年度は、2学期より市ホームページに学校のホームページを組み込まれ、リニューアルしました。  
 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、学校行事の急な中止・変更、参観等の機会がなくなり、学校の様子が分からない、子どもたちの学校での様子を知らたいたいという保護者の方々の声も聞かれました。ホームページのリニューアルに伴い、積極的に学校での様子をホームページに掲載していきましました。ただ、リニューアル当初は保護者の方々の認知度も低く、「学校だより」やPTA役員会などで積極的にホームページについて繰り返しお知らせし、PTAの役員の方からもアナウンスしていただき、認知度も上昇しました。保護者の方から、「給食でどんなものを食べているか分かってうれしい」という声も個人懇談の際などにお聞きすることもできました。今後も、個人情報の保護や守秘義務等を遵守した上で、積極的に情報の発信を学校として推進していかなくてはなりません。ホームページ更新について、ICT支援員より関係職員に職員研修を実施し、役割分担を図りながらホームページの更新業務にあたっています。これから緊急時には、市学校メールと併用しながら、気象警報の発令や緊急時の迅速なメール配信等、正確で円滑な情報提供に努めてまいります。  
 今後はさらに、地域の方々にも周知していけたらと考えています。保護者や地域の方々には、学校の教育方針や願い、教職員の思いをしっかりと伝えていくことで、学校と保護者との協働が可能となり、より強固な関係が築かれるものと考えます。また、このことは、子どもたちのよりよい育ちにもつながります。学校運営協議会や学校・地域パートナーシップ事業支援ボランティア等で来ていただいた地域の方々にも積極的にお知らせをしていけたらと考えています。